

人手不足倒産が上半期で過去最多 業務の属人化を今日から点検する 7つの確認点

帝国データバンク「2026年上半期 倒産集計」（2026年7月8日）・
日本商工会議所「多様な人材の活躍等に関する調査」（2026年9月15日）をもとに整理

なぜ今、業務の属人化が危ないのか

2026年上半期の「人手不足倒産」は227件（前年同期比12.4%増）と、上半期として過去最多を更新しました（帝国データバンク）。同年9月には日本商工会議所の調査（2,654社）でも、中小企業の60.0%が人手不足と回答し、うち48.2%が事業運営に影響・支障があると示されています。

倒産の原因には「採用できなかった（求人難型）」だけでなく、「退職が続いて業務が回らなくなった（従業員退職型）」があります。後者は採用強化だけでは解決できず、業務の仕組み化が必要です。

公式データから読み取れる3つのポイント

ポイント1：「人手不足倒産」は採用難だけが原因ではない

帝国データバンクは「求人難型」と「従業員退職型」に分類して集計しています。退職型の問題は採用活動では解決できません。その人しかやり方を知らない業務がある限り、1人の退職が業務の空白を生みます。

ポイント2：少人数の会社ほどリスクが大きい

少人数で回している組織では、1人あたりが担当する業務の幅が広く、担当者が退職したり休養が必要になった場合の影響が直接経営に波及します。

ポイント3：採用強化だけでは追いつかない

採用市場は競争が激化しており、採用だけでなく「今いる人数でこなせる業務量を増やす」視点が不可欠です。業務の自動化・システム化が対策の柱となります。

業務属人化チェック：7つの確認点

#	確認すること	「はい」の場合の懸念
1	自分以外にやり方を知っている人がいない業務が1つ以上ある	その人が不在になると業務が止まる
2	月次・週次の定型作業に、手順を毎回確認しながらやるものがある	手順が文書化されておらず引き継げない
3	顧客情報・取引履歴・在庫が特定の人のExcelや個人フォルダにある	その人が退職するとデータにアクセスできなくなる
4	担当者が急に1週間休んだとき、別の人が代われる業務が半分以上だ	業務全体の継続リスクが高い
5	業務の「完了」や「進捗」を誰もがリアルタイムで確認できる仕組みがない	担当者以外が状況を把握できない
6	定型的な入力・集計・通知・転記の作業に毎週1時間以上かかっている	自動化で削減できる時間が大きい
7	最後に業務フローを整理・更新したのが2年以上前（または一度もない）	実態と手順書が乖離している可能性がある

1～3のどれか1つでも「はい」なら、その業務は引き継ぎリスクを抱えています。

「担当不在でも止まらない仕組み」への3ステップ

1. ステップ1：業務フローの可視化と標準化

「誰が・何を・いつ・どうやって」の4点を箇条書きにし、別の人がやってみて確認する。

2. ステップ2：繰り返し業務の自動化

受注転記・集計レポート・締め日通知など「手順が決まっている・繰り返し発生する」業務を自動化対象として優先する。

3. ステップ3：システム化で作業記録を自動的に残す

受発注・顧客管理・在庫をシステムで管理し、「誰が・いつ・何をしたか」の履歴を自動蓄積する。

最初の1つが完成したら3ヶ月後に次の業務へ広がります。スモールスタートで実績を積む進め方をおすすめします。

株式会社DnDにできること

- ・業務フロー整理・自動化の設計（どの業務を仕組み化すべきかの整理から）
- ・業務システムの受託開発（受発注・顧客管理・在庫・進捗管理など）

- ・ 既存システムの点検・刷新（属人化の原因となる不備を洗い出し）

ご相談・お見積りは無料。「何から手をつけるべきか分からない」段階からお受けしています。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>

出典：帝国データバンク「全国企業倒産集計 2026年上半期報」2026年7月8日公表 / 日本商工会議所「多様な人材の活躍等に関する調査（2026年度）」2026年9月15日公表

© 2026 株式会社DnD — <https://dnd-inc.jp/>